

SDGs 国連が2030年までに解決を目指す持続可能な17の開発目標。本稿に書かれた目標は「陸の豊かさを守ろう」。

認定NPO法人

「環境リレーションズ

研究所」事務局長

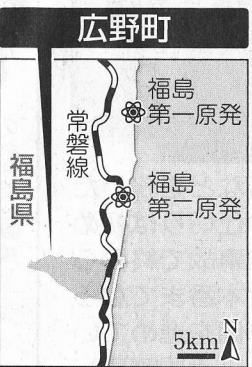
平沢真実子さん



私たちは記念日に

木を植える活動「プレセントツリー」を通じ、福島県広野町の防災緑地に広葉樹を植え、生態系豊かな里山林を再生しています。この活動は森林再生に加え地域振興も目指しています。二〇一六年二月の植樹ツアーを皮切りに、地元住民と都市住民の交流ツアーを継続してきました。

町内の鹿嶋神社で四月八日、「浜下り神事」が八年ぶりに復



かったそうです。町も二年前に復活に向け動きだしたものの、関係者の合意形成には時間を要しました。ようやく復活決定の報告を受けたのは三月下旬。二月下旬にツアー開催を告知していたので、ハラハラドキドキの日々が続きました。

津波被害を受けたJR常磐線広野駅の東側沿岸部は再開発が進み、町は復興しつつあります。住民の八割が帰還し、今は心の復興

## 神事の復活で地域再生

活。東京から約四十人が参加した交流ツアーで神事＝写真＝を見学しました。勇壮な神輿を沿道で見守る住民のあふれる笑顔。素晴らしい光景に、一行も感無量でした。

東日本大震災の津波による神社の被害に加え、原発事故に伴う避難生活で氏子が激減するなどして、神事復活までの道のりは厳し

も求められています。祭りの復活はコミュニケーションの再生を図る重要な出来事だったと思います。

当日は氏子のほか、地元学生や東京電力社員、町職員など二十五人が神輿を担ぎました。町は復旧作業員や双葉郡の避難者を受け入れています。氏子総代の根本賢仁さんは「今後は旧住民と新しい住民が信頼関係を築くことが大切。祭りがきっかけになれば」と未来を見据えています。

SDGsは、普遍的な目標として「誰も置き去りにしない」ことを掲げています。電力を福島に頼る私たちが町に通い続けることで、震災を風化させず、人と人との信頼関係を築けるよう、交流ツアーを続けていきたいと思えます。



※この連載は、NPO法人JKSKによる『結結プロジェクト』の協力を得ています